

かみとくじらしゆく

上徳次郎宿跡

上徳次郎宿は江戸時代、中・下徳次郎宿とともに、江戸日本橋を出立してから、日光道中21宿の18番目の宿場町として栄えた。

3宿の中では北端に位置し、最も早くから開けた宿で、元和3年（1617）、徳川家康公の神霊を日光山に鎮座する際、人馬の継ぎ立てを行い、以後宿駅となった。宿の長さ



は3町14間（35.2m）、家数は30軒ほどであった。宿内には本陣1軒、脇本陣2軒（兼問屋場といやば）、高札場1カ所こうさつばが設けられていた。将軍日光社参の小休所として、宿の西側奥に「安養院あんよういん」があった。

江戸時代、徳次郎3宿には72軒もの旅籠はたごがあったが、特に上徳次郎宿には旅籠が密集していた。



富屋地区まちづくり連絡協議会

令和2年建立